

令和6年11月28日

令和6年12月定例議会 記者発表 あいさつ

本日はお忙しいところをお集まりいただきありがとうございます。

12月定例市議会の記者発表に当たり、議案の説明に先立ちまして、ご挨拶を申し上げます。

まず、本議案に関するものですが、新しくできた新病院「たまの病院」の開院記念式典と内覧会が、いよいよ12月1日に開催されます。

内覧会には、多くの市民の方にお越しいただきまして、新たに誕生する新病院の様子を見ていただきたいと思います。

今後は、玉野医療センターとの連携の下、安全・安心な医療を提供し、健康長寿のまちづくりに寄与して、市民に信頼される病院を目指して参ります。

新庁舎の整備事業についてであります。

12月4日に、玉野市庁舎整備事業の安全祈願祭を行う予定であります。祈願祭には関係者約60人が参列し、新庁舎整備工事の安全を祈願します。

これから建設工事が本格化いたしますが、令和8年6月の完成に向け、安全で、市民にとって利用しやすい庁舎となるよう、引き続き取り組んで参ります。

中期財政試算についてであります。

昨日、議会の方で中期財政試算をお示ししたところでありますが、これまでの長きにわたる行財政改革への着実な取り組み等により、一時の危機的な状況と比較すると一定の改善が図られており、今後は多様化する行政需要を的確に把握しながら、必要な市民サービスの提供・向上に努めてまいります。

その一方で、中・長期的な視点に立った行政課題につきましても、しっかりと認識しながら、引き続き、持続可能な行財政基盤の確立に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

小中学校の適正規模・適正配置計画についてであります。

玉野市教育委員会で、6月に公表した「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）」について、10月7日の八浜中学校区を皮切りに、11月2日までに全8回の地域説明会を実施したところです。

私もすべての説明会に出席し、参加者の皆様のご意見を直接伺いました。

小中学校の再編は、本市の教育、子どもにとってより適切な教育環境を作ることが主な目的ではありますが、地域においても大きな影響を与えるということでもありますので、保護者の皆様や地域住民の方々のご理解が得られますよう、教育委員会とともに、今後、計画策定を進めて参ります。

次に、瀬戸内国際芸術祭2025についてあります。

来年4月から開催される瀬戸内国際芸術祭2025につきまして、10月17日に瀬戸内国際芸術祭実行委員会総会を経て、10月24日には、東京において企画発表会、11月20日には岡山説明会が開催され、企画概要やメインビジュアル、参加予定作家などが発表されました。

本市宇野港エリアでは、韓国のアーティスト、ブ・ジヒョンさんが瀬戸内海をテーマにした作品を作る予定や、港と市内の企業、そして、みやま公園に共通のテーマ性をもった作品を展示するなど、市内にも足を運んでいただき、周遊しながら楽しんでもらうことできる取り組みの予定が発表されたところでもあります。

今回の瀬戸芸はコロナ禍以降初の開催であり、同じく来年開催される大阪・関西万博との相乗効果も期待されるところであります。

本市としても、インバウンドを含めた幅広い集客が見込まれるこの機会を逃さず、本州側から各島々への瀬戸内の旅の起点となる港町として、本市の観光の魅力づくりと発信はもとより、来訪者の受入体制の整備に努め、観光でのより一層の地域活性化を図って参りたいと考えております。

この後、各議案については、担当課から説明をさせていただきます。

私からは以上です。